

令和元年度 第2回研修会の記録

開催日 令和 元年 8月 4日

研修テーマ	都市樹木にみられる「危険な病害虫」	参加者	埼玉県支部 29名 その他 32名 計 61名
講師	神田 多氏 (神奈川県支部 樹木医)	場所	「With You さいたま」視聴覚ホール
資料	・注意すべき樹木の病害虫について ・病原菌別適用薬剤一覧	記録	田窪 隆彦
目的	都市部では、単一樹種による植栽や制約された環境への植栽等、樹木へのストレスは大きなものとなっている。そのような環境では、病原が分からずに被害が拡大してしまい、重篤な症状となるものがある。今回は重篤な症状となる「危険な病害虫」に焦点を絞って学び、樹木の保護・保全に役立てることを目的とする。		

研修内容

(第一部) 注意すべき病害虫

最近、講師ご自身が携わった病害虫診断結果の中から、特に高頻度に見られたもの、危険度の高いもの、注目すべきものとして、マツザイセンチュウ病、ヒメ樹脂胴枯病、ビャクシンさび病、サクラさめ肌胴枯病、ケヤキ葉枯れ症状ほかについて解説を受けた。誤診を減らし、重篤となる前に正しい治療をするために病徴の僅かな違いを見逃さないことが重要であるという。



講師：神田 多氏



講義風景 (調査結果報告)



講義風景 (マツザイセンチュウ病)

続いて、最近問題となっているカシガキイムシ(ナラ枯れ)、クビアカツヤカミキリ、ウメ輪紋モザイクウイルス(PPV)、クスベニヒラカスカミについて、その特徴と防除方法についての解説を受けた。

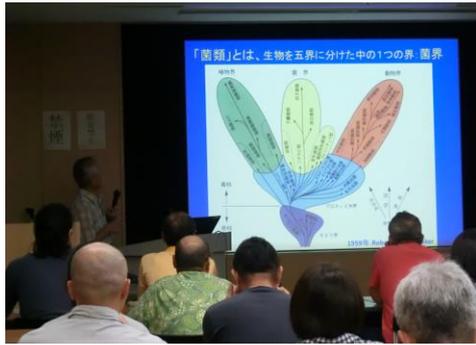


講義風景 (クビアカツヤカミキリ)

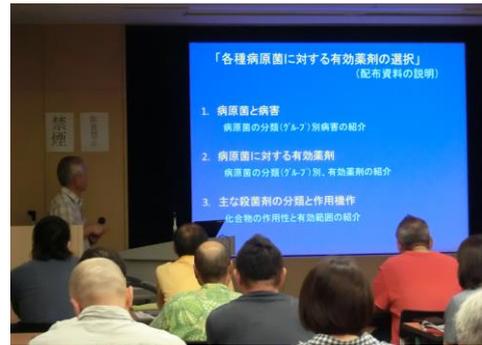
第一部の最後の質疑応答では、サンプルの加湿方法、病原菌の同定方法、胴枯れと枝枯れの危険度の違い、クスベニヒラカスカミとアザミワの症状の違いなどが扱われた。

(第二部) 樹木と病原菌

樹木と病原菌では、菌類の分類、菌類の一生(生活環)、発病の三要因から始まり、病原菌の侵入方法と防御反応などについてと、各種病原菌に対する有効薬剤の選択について病原菌の分類別病害、その有効薬剤、薬剤の作用性と有効範囲についての解説を受けた。



講義風景(菌類の分類)



講義風景(病原菌と有効薬剤)

また、登録薬剤の適正使用に関する「農林水産省の見解」についての解説があり、有効薬剤の使用の可否についての興味ある話が伺えた。